

中頓別町のワインづくり



中頓別町では、平成29年から醸造用のぶどう栽培事業に取り組んできました。

6月には、試験醸造したワインの町民向け特別販売、7月からは一般販売を開始しています。

今月号では、醸造用ぶどう栽培事業のこれまでの取り組みやワインセミナーの様子、今後の取り組みについて紹介します。

これまでの経過

中頓別町では、醸造用ぶどうの試験栽培事業を平成29年に開始しました。平成29年は、山ぶどう系の品種30本を試験的に定植しましたが、天候不順等の影響によりすべての苗が生育不良となり栽培休止となりました。平成30年に、日照時間や傾斜、土壌等を考慮し栽培適地を再選定しました。山ぶどう系4品種52本の苗を定植し、順調に生育することを確認しました。また、翌年の融雪後に越冬状況の確認を行い、一部の苗に欠損や凍害は見られましたが、新芽の発芽を確認しました。

令和5年からは、商業用圃場の整備を開始し、本格的な定植もスタートしました。令和8年に行われた定植体験会を含めてこれまでに約2000本の苗木を1・84haの圃場に定植しました。収穫量は年々増加しており、昨年は全体で900kgを収穫しています。

課題

中頓別町のぶどう栽培では遅霜への対策が課題となっており、令和2年に不織布を活用した被覆法を実施しました。その後、令和4年に実施した薪を使用する燃焼法で効果を確認したため、現在は燃焼法を実施しています。

今後について

今年度定植した木が完全に成長する令和13年頃には、収穫量4692kgとなることを見込んでいます。本格的なワインの販売は令和10年を予定しています。また、ワイン以外の商品化についても検討を進めます。

最後のぶどう定植体験会を実施！

6月13日、ぶどう定植体験会が実施されました。今回の定植体験会で最後となる予定で、清見と清舞の2品種約380本を参加者で定植しました。

当日は天気にも恵まれ、参加者は協力しながら苗木を定植しました。定植体験後、参加者は「今日植えた木から収穫したブドウがワインになるのが楽しみです」と話していました。



ワインセミナー開催

6月6日、町民センターで令和8年度中頓別町ワインセミナー「中頓別町のワインの未来を語る夕べ」が開催されました。

ワインセミナーは3回目の開催となり、町内外から82名が参加しました。今回は、講師として北海道ワインアカデミー名誉校長の田辺由美氏、アドバイザーとしてNPO法人ワインクラスター北海道代表理事の阿部眞久氏が来町し、シンポジウムと試飲会・意見交換会を行いました。



シンポジウムでは田辺氏から

「世界から中頓別へ」をテーマに、中頓別町で栽培している山幸が池田町で開発された経緯についてお話がありました。また、中頓別町の1年の気温の変化を道内のワイン用ブドウの産地として知られる池田町や余市町と比較し、2町に比べて冬の気温が低くなる中頓別町では凍害のリスクの少ない「山幸」が栽培に適していると説明がありました。

試飲会・意見交換会では、昨年中頓別町で収穫したぶどうを道内のワイナリーにて試験醸造

した赤ワインとロゼ、別の町で収穫された山幸を使用して同じワイナリーで醸造された赤ワインの3種類で飲み比べが行われ、参加者はそれぞれの香りや味の違いを楽しみました。参加者からは特に中頓別町産のワインが好評で、赤ワインだけでなくロゼの販売を望む声もありました。また、会場には道内産の多種類のワインが用意され、参加者は様々なワインを試飲して自分好みのワインを楽しんでいました。



中頓別産ワイン町民向け特別販売、一般販売開始！

6月25日から、昨年収穫したブドウで試験醸造したワインの町民向け特別販売が開始されました。また、7月1日からは、(有)宮崎商会、ピンネシリ道の駅、セイコーマートなかとんべつ店で一般販売を開始しています。7月15日からは、ふるさと納税にも登場します。この機会に中頓別産ワインを飲んでみませんか？

